

京都駅 第二世

洛友会報

京都市左京区吉田
京都大学工学部
電気科教室室内
友会

沈黙は金なり

一般にまとめる役とか世話を役とか云うものは、いつも相手方からボロ糞に云われるものです。さりとてこれにムキになつて相手になれば仕事はこわれるし損をする。そこはならぬ勘忍をするに限ると云う話を島養先生とお話ししておりましたら、先生は次の講話をなさいました。

先生が曾て工学部長時代に一時に十五講座の増設が認可されました。それでたのは大学当局でそれ丈の講座がふえる事になれば教室が増したのと同様で、増築に多くの資材が必要としますし、然も当時は統制の厳しい時代ですから、その配給を受けるのは並大抵のことではありませんから。そこで資材の面でも先生がされることになりました。

何事も軍の息がかからないと致しがありますから、軍令部の需給課に出向われ種々懇談されたのです。岡田大佐は温厚な人でよく事情を聞いていましたが、桐野大佐はさすが桐野利秋の孫だけに向う意氣強く、この非常時に教育何者ぞとばかりにボロ糞に申しました。

そこで先生はいとも落付いて「それでも要りません。そのかわりに卒業生も寄せ寄せと再々申込んでおられるが、この後は海軍には一人も卒業生は上げられません、左様なら」と軍令部を退出しようと廊下を歩いておられるとき、後から桐野大佐が追いかけて来て呼び戻すのです。誘わざれまでもの席下着かれると桐野大佐は先の暴言を謝り、資材配給の手続をするから少々お待ち願い度いとのことで、待つておられる間に岡田大佐も大臣の許可を得て、配給書は先生に渡されました。

渡されると當講課長は驚いて、この腮絵書を持ち帰り大学当局に

懇 話 会

一月八日午後一時から開会された。建物の北側には先日の大雪の名

渡りますと

と當講課長は驚いて、

（老書生）

んなに沢山の資材は必要としません。これが暖く燃えていた。来る三月に卒業する学生に祝辭が贈られる。就職状況が述べられる（前号）。

加藤信義会長の挨拶が始まる。来る喜びを述べられた。

大学院学生総代北岡氏、次に三回とですが、京都電気俱楽部が出来、生総代山中氏、新卒業生への挨拶がある。そして、洛友会を総代して工事長で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に聞く会を催したことがあります。

一芸で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に事長は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に

（同第二講義室は、昔懐い石炭ストーブが暖く燃えていた。）

会報と同様。

更に現在の電気工学科教室に新しく「電子工学」が増設されて発展する喜びを述べられた。

大学院学生総代北岡氏、次に三回とですが、京都電気俱楽部が出来、生総代山中氏、新卒業生への挨拶がある。そして、洛友会を総代して工事長で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に

（同第二講義室は、昔懐い石炭ストーブが暖く燃えていた。）

会報と同様。

更に現在の電気工学科教室に新しく「電子工学」が増設されて発展する喜びを述べられた。

大学院学生総代北岡氏、次に三回とですが、京都電気俱楽部が出来、生総代山中氏、新卒業生への挨拶がある。そして、洛友会を総代して工事長で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に

（同第二講義室は、昔懐い石炭ストーブが暖く燃えていた。）

会報と同様。

更に現在の電気工学科教室に新しく「電子工学」が増設されて発展する喜びを述べられた。

大学院学生総代北岡氏、次に三回とですが、京都電気俱楽部が出来、生総代山中氏、新卒業生への挨拶がある。そして、洛友会を総代して工事長で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に

（同第二講義室は、昔懐い石炭ストーブが暖く燃えていた。）

会報と同様。

更に現在の電気工学科教室に新しく「電子工学」が増設されて発展する喜びを述べられた。

大学院学生総代北岡氏、次に三回とですが、京都電気俱楽部が出来、生総代山中氏、新卒業生への挨拶がある。そして、洛友会を総代して工事長で筆者は幹事（いつも会が出来ると世話役）の時、市川猿之助氏に

美しさ。わけても乙女が純情で思ひやりの深いのに感銘。リーベーのない男は北海道へ行けと移民会社のよくな口調。おまけにピールとアイスクリームがうまいと言う。実習は何かしら。

(○井上君 東京の通信研究所へ研究員八百名。職員を入れて千三百人の大研究所。実習はハンダゴテとテスター持つて組立。課長や部長による夢を見た様子。その他日本無線、N.H.K.、日本文化放送など見学した

昭和十二年、十三年在京窓生の間では、かねてから合同クラス会開催の希望が多かつたが、今回、正木、平野（彰）兩兄の御世話で一月二十三日（土）新橋駅構内第一回会合を開催した。この日、京都から阿部先生が御上京、同時に拔山、星合、渡辺の諸先生と新橋で御会合中であつたので、是非共御出席をと交渉の結果、快諾をいただき、短時間であつたが今度新設される電子工学教室その他の教室の将来の発展について力づよいお話を伺つた。

この日夕方から東京は大雪に見舞われ、一次会終了後、分れて二次会が各所で行われた。

電車後、自動車運転不能の結果、事家に辿りついた人は甚だ少なかつたとか聞く（次回は昭和十四年の諸兄も加えて開催したのを見たもので、出でるだけ近い中で集会する機会を持ちたいと思ひます）

昭和十二、十三年合同クラス会の記

阿部清

昭和二十九年一月二十九日

昭和十二、十三年京大電気
卒業合同クラス会

正木知己

平野彰

加藤賢一
藤驥
伊藤義之

教室の思い出

彪くらべ

昔から「たけくらべ」と筒井筒の言葉は残つていたが、ひげくらべと言うのは余り聞かなかつた。今年の学生や新しい会員には鼻下ひげをたくわえているのは少ない。我々の時代にはカイゼルひげの時代でひげの両端をひねりひねり廻して、捻が戻らぬようにしたものである。紳士になると、ひげにチックをつけ、ひねりが戻らぬ様にしたものである。ひねりが戻らぬ様にしたもので

そのこと。都会は経費がかかるので用意が必要と注意。

「米国の配電事業」と題して関西電力株式会社の和田昌博氏の講演があり、同氏は昭和七年の先輩である。最近アメリカに渡り、サンフランシスコとデトロイトに主力を注いで調査し、その余は米国主要都市を見学して帰朝されたのである。配電を中心とするサービスの改善電源の増強に対応する配電の増強、工事能率の向上、積算電力計の取扱と電線、内線工事等について頗切なる講演があつた。

そして、これを補うのに、自ら撮影されたカラーフィルムの映画を見て貰つた。

高圧や特高の活線作業、電柱建設の機械化、特高碍子の水洗など興味深い映画であつた。

更に学生の胸をときめかしたのはニューヨークの勤くネオンサインのけんらん豪壯な美しい映画で、然もまた見るところが出来たことであつた。

行こうと学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して一列横隊に並ばせて検分をしたわけである。ちよろちよると、うぶ毛みたのが生えている学生もあつた。

見当らなかつた。言わば定義を下すことが不可能だつた。

定義が判らなければ、現実主義でか、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

「ひげ」は確定された。

そうして落第したひげは剃り落しの宣告を受けた。

が、落第であつた。審査員によつて

一体どの程度に鼻下に毛が生えて

いたら、ひげと称することが出来る

か、学生間で議が成りたつた。

鼻下に毛の生えた学生を動員して

定義が判らなければ、現実主義で

か、学生の手の届く範囲の文献には

見当らなかつた。見当らなかつた。

これがと対照して劣れば、ひげの資格がなくなつて理髪屋の厄介に成らねばならないことが極められた。某君のひげが五〇点。ひげを生やせば五点以上の点数を取る必要があつた。それから日が経つと、ひげの審査が標準として某君のひげが選ばれ、

昭和29年4月5日

報

会

友

洛

第5号

(3)-25

關西支部總會案内

支部長 石川芳次郎

日時 四月十四日(水)

会場

大阪中央電氣俱樂部

午後四時より映画(丸山発電所外一巻)

午後五時より時事講演

午後六時より懇親会

懇親会々費 金三百円也

但し昭和二十四年以降金二百円也

関西支部所属となる新会員は招待

東京支部總會予告

支部長 佐藤 穩徳

日時 五月十二日(水)

会場その他は追て案内します。

当日は会長初め教室諸先生、本部役員多数出席の予定

です。

当日上京、滞京の支部外の会員の御参加を歓迎致します。

す。

先だと、教室の赤煉瓦を背にして日当たりで審査される。標准某君と、ひげの申請学生を並べて大勢の学生で判定したのだ。誠になごやかな風景で、その時代のひげを今まで貯えている者もある。勿論、そのひげは既に銀色に輝いている。

(大五・長井生)

「雷に尻しつぽがあるかね」と言われば、私は小首を傾げる許りだつた。(老書生)

(関西電力建設部)

下津井節

昭一七 珠玖 泰吉

雷を追つ駆けて

昭一五 古賀 七郎

實習の思い出

何にも見なかつた話

雷を追つ駆けて

昭一七 珠玖 泰吉

実習の思い出と言つても、私の変っている。元々、私は海軍関係ではつたため、日立製作所に実習の予定を、軍が急に変更して潜水艦勤務の実習となつた。

風急な頃だったので、潜水艦に乗り込むと、直に南の方へ演習訓練と出勤した。

南へ下るにつれ、日中は潜行。

雷を取り組むことになつた。行く先は日本一の雷の名産地、前橋であつた。へそ驚く勿れと言ふ

害防止委員会の仕事の一端に携つて雷鳴が鳴り止んでもらうのであつた。

人には皮肉なもので、実習は、雷

某夜、聞くともなしにラヂオの音が耳に入つた。

わしがおやはよ島原沖でよー

飼をつるよートノホイ

何か覚えがあるように思つたので聞入つてみる気がした。

波にゆられて島原沖でよー

飼をつるよートノホイ

何度もきいた歌だ。にわかに半世紀

近くも前の記憶が蘇る……黒い学生

服の学友の姿や遠く並ぶ國板の様子

など……懐しい限りであつた。

何度もきいた歌だ。にわかに半世紀

近くも前の記憶が蘇る……黒い学生

何度もきいた歌だ。にわかに半世紀

近くも前の記憶が蘇る……黒い学生

服の学友の姿や遠く並ぶ國板の様子

など……懐しい限りであつた。

何度もきいた歌だ。にわかに半世紀

近くも前の記憶が蘇る……黒い学生

何度もきいた歌だ。にわかに半世紀

近くも前の記憶が蘇る……黒い学生

服の学友の姿や遠く並ぶ國板の様子

東京支部だより

東京支部一月幹事会

本年度第一回の幹事会を有楽町東光ビル内東電科学技術研究所で開催され、佐藤支部長、乙葉副支部長はじめ十二名出席しました。

東京事務所を右の東電技術研究所にしましたが場所がよく今後の活動に

△本部役員会▽

二月八日開会。京都、應用科學研究所にて。出席者—加藤、山村、大谷、近藤、工藤。

ら運営まで、一にて賞うことにした
講演者は、（松副支部長に、映画
は珠玖幹事に御願した。
一、行事の一つとして夏か秋かに關
西電力に御願いして、丸山発電所を
見学することの案を承認した。

事務全般の中間報告
、会報第五号発行
その他

三月十一日開会。大阪、中央電氣俱樂部出席者、一本松、山村、珠玖、嘉田、竹山、工藤。

卒業生総數
内訳
通信可能
物故その他
居所不明
地方別
一一〇四名
一六四二名
三四五五名
一一七名

△会員分布現況△
(三月期)

関西支部	東京ク	中部ク	東京ク	人數
七三二	四七三	一三一	四七三	七三二
九四	八一	九四	二九	四三
五九	五三	四五	六五	百分率
北陸ク	四国地方	九州ク	中国ク	第六号は来る六月に着手する予定で
四国並北陸地方に早く支部の設立せられるよう熱望して止まない。大方の御盡力を祈る。		その他		

嬉しいことですね
飲み助の連串だらう、鶴利さん
る。景色なんか食へたりしていい
甘黨は甘黨なんだからね。
たしか木本の寄車のドアの外で
客車から来るる客車から来るる客車
た。葉子を出したり、草津の姫を出
り、草津の姫を出たり、草津の姫を出
稅であつた。娘を出たり、娘を出たり、娘を出
後で聞いた話機関車へ炭水槽のかんをして

の比企先生だつた。さうは、駅壳を買つて傾けて盃をなめが眼頭になかつたと何かしやぶつた。話だが、土木の連車を乗り越して行ふつたといふ。

たの いてい り、 か、 他の されは 無い。 仕舞つた。 宿屋は とんの宿だ。
中は う慣慨話で いたて、そなへた。 地元は が三三人だ。
通行 して た。 地元は その当 ふうの ひどいふう。

新婚旅行で来られても、ふ
む方が経済的に損失だと思
う。上等の布団を合なしに
と、布団はすつかり引き揚
汚いふとんと替えられて
運ない。



教室の玄関。大学内に新しい教室の建物が次から次へと新築される。そして、それ等の立派な玄関を見ると我々の教室の玄関は貧弱なものである。然し古色蒼然としているが、先輩の無い足跡が刻まれている貴重さは誇るに足ると思う。

学生旅行

時が経つと、年代など、すつかり忘れて仕舞う。懐な記憶によると大正三年の頃かと思う。

当時は理工学部と言つて、工学部と理学部とが同じ傘の下に這入つてゐた。そして理工学部の学生で甲寅会という会を組織していた。甲寅会というのだから創立の時の年から名付けたのである。

この会からの伊勢旅行に私は参加した。臨時列車で京都駅を離れる。

昭和二十一年度の会費を頂きます
支部会員は支部会費を本部会費と一緒に御送金下さい。支部へは本部から転送致します。会費領收は会報にて発表致しますから左様御諒承下さい。

会員各自の近況通信を歓迎します
て書いて下さい。

会費に就いて

【本部會計】

第六号は来る六月に発行の予定です。
原稿〆切は五月十日まで
各支部の記事はなければないと御
知らせ下さい。
クラス会等の寄せ書きは必ず墨に
て書いて下さい。
会員各自の近況通信を歓迎します

会費に就いて

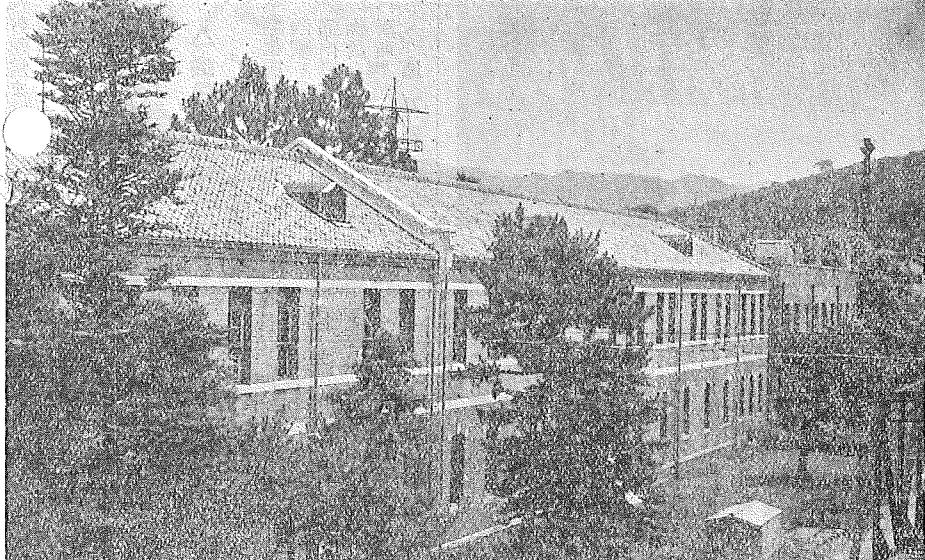
昭和二十一年度の会費を頂きます
支部会員は支部会費を本部会費と
一緒に御送金下さい。支部へは本部
から転送致します。会費領收は会報
にて発表致しますから左様御諒承下
さい。

洛友會々費領收

二月末日までに到着の分

嘉	正義	吉雄	友	次	吉	久	吉	郎	正義	嘉
茂	浩	有	平	寬	三	正	豐	修	政	吉
山	本	達	藤	金	井	大	串	中	森	井
三	郎	主	馬	健	吉	長	成	茂	雄	吉
廉	田	水	河	田	村	吉	田	西	岡	村
田	内	内	村	代	内	吉	内	佐	本	間
茂	浩	有	平	寬	三	正	豐	修	政	吉
大	大	四	四	四	五	三	三	二	一	一
一	五	一	五	三	一	九	八	七	六	〇
一	五	一	三	四	三	四	三	二	二	一
一	五	一	三	四	三	四	三	二	二	一

昭	白川寿美男	赤松	近沢	岡本	高田	安本
三三	三四	五六	七八	九〇	一〇	一一
三三	三三	二〇	一九	一八	一七	一六
版部	池上	奥田	藤間	泉	古池	片山
嘉文	弘豊	秀雄	克敏	英武	耕英	利夫
雄	弘豊	秀雄	入郎	一郎	平介	一郎
石井	岡崎	樋田	池内	木村	姫井	柴山
正之	敬寔	義則	農治	泰一	定輝	二ノ方兼武



教室の南側。春の光が赤煉瓦の壁にさんさんと当つていて静かなことだ。懐しい日向ぼっこ。古い先輩たちは髪くらべをしたと言う。若い卒業生はガールフレンドの隣に、うつつを抜かした処であろう。古い先輩の時代には、この建物は平屋建であつたことは勿論だが、若い入には、一寸妙な感じがするがろう。

新卒業生の就職先

波多野龍	(富士通信機)
藤田英之	(日立製作所)
間瀬光朗	(沖電気)
松村和男	(日立製作所)
村田鉄枝	(鳥田理化)
山口俊夫	(沖電気)
中醜	(電気通信研究所)
以上東京支部	
安賀隆志	(大和製衡)
井内優	(早川電機)
井上和夫	(近畿日鐵)
伊藤利朗	(三菱電機)
岩橋茂樹	(関西電力)
早励	(川崎重工業)

大沢 謙一	(日本電氣機械)
加納 顯一	(日本電氣)
片井 正男	(富士電機)
久保田 哲郎	(富士電機)
島 紀彦	(三機工業)
白杉 茂	(東京芝浦電氣)
多田 久守	(富士電機)
立山 尙武	(太洋無線)
谷 正男	(東京電力)
徳永 雄男	(日立製作所)
中村 清	(日本電氣)

今般富山、石川および福井の三県に在住の洛友会々員により北陸支部が結成せられることになり、その趣意書は既に発起人より会員に発送されました。富山産業大博覽會開催中に鳥養会長始め教室の諸先生を迎えて支部第会式を挙行される筈です。三県在住の方にてお漏れの方がありましたら発起人までお申出下さい。

洛友会北陸支部結成

二八
新德永
近藤耕三

飯田未	桑畑泰文 （鳥津製作所）	北野宏 （関西電力）
未定	小林禎文 （京阪電鉄）	桑畑泰文 （鳥津製作所）
隆郎	塙見正 （三菱レーヨン）	小林禎文 （京阪電鉄）
大久保	恒男 （関西電力）	塙見正 （三菱レーヨン）
星野	西内博 （新日本電気）	恒男 （関西電力）
山本	谷長岡 （立正電機）	西内博 （新日本電気）
高橋	西内谷 （立正電機）	谷長岡 （立正電機）
島原	藤田好文 （日新電機）	西内谷 （立正電機）
岸本	船越恒男 （新三菱重工）	藤田好文 （日新電機）
野田	西内恒男 （新三菱重工）	船越恒男 （新三菱重工）
井上	長谷川利安 （川崎重工業）	西内恒男 （新三菱重工）
岩井	利安（藤永田造船所）	長谷川利安 （川崎重工業）
佐藤	貞和（藤永田造船所）	利安（藤永田造船所）
田中	貞雄（大阪電壓器）	貞和（藤永田造船所）
前波	利昭（大日電線）	貞雄（大阪電壓器）
久保	泰助（湯淺蓄電池）	利昭（大日電線）
佐藤	博成（関西電力）	泰助（湯淺蓄電池）
文紀	廣（大阪電壓器）	博成（関西電力）
晃	（富士製鐵）	廣（大阪電壓器）
武	（松下電器）	（富士製鐵）
（八幡製鐵）	（吳羽紡績）	（松下電器）
（安川電機）	（三菱電機）	（吳羽紡績）
折橋辰之祐 （嚴洞鉱業）	以上関西支部	（三菱電機）
大学院希望者	以上九州支部	以上九州支部
	以上中国支部	以上中国支部
	以上北陸支部	以上北陸支部